



網地島ラインの新客船 See Cat(シーキャット)

- 郷の音 渡辺 洋悦さん
・笑う門には福来る 寄らいん牡鹿 新春交流会
- 特集 キャンプで自然と遊ぼう!
- お知らせ
・バレンタイン・フラワーアレンジメント教室紹介
・「こんなのあったらいいな」夢を語りに行こう!



キャンプで自然と遊ぼう!



◆管理棟

キャンプ場に到着したらまずは管理棟で受付をしましょう! スタッフの方が親切にキャンプ場の説明をしてくださいます。管理棟には氷や調味料、薪や紙皿などが販売されていたり、バーベキューコンロや焚き火台などもレンタルすることができるので忘れ物をしてしまった時には助かりますね!

子どもにとっても、大人になってもたくさんワクワクがたっぷりなキャンプ。家族や友人たちと賑やかにワイワイ楽しんだり、ひとりゆっくりたり自分の時間を満喫したりと過ごし方は十人十色。海・山・島に囲まれた牡鹿半島は、自然の中で遊ぶのもってこいです。

今回いんぷおスタッフで、牡鹿半島の鮎川浜にあるキャンプ場「おしか家族旅行村オートキャンプ場」に行ってきました。

金華山を目の前に望む最高のロケーションが魅力のキャンプ場は、夏場のシーズンを中心に仙台など都市部から訪れる多くの人で賑わいます。取材に訪れた日も、2月の寒い時期にも関わらず家族や友人とキャンプに来た人々が牡鹿の自然を満喫していました。



渡辺 洋悦 (わたなべ ようえつ) さん

牡鹿半島は高齢者が多い地域です。高齢化がますます進んでいく今、地域内での関わりや見守りがこれまで以上に重要になることでしょうか。寄磯地区では、どのような取り組みをしているのでしょうか。区長をされている渡辺洋悦さんにお話を伺いました。

寄磯ってどんなところ?

寄磯浜は牡鹿半島の北東部に位置していて、ホヤやホタテの養殖にたずさわる人が多い地域です。寄磯浜までの道のりは坂や急なカーブが多く、住むには不便という印象がありますが、渡波までは車で30分ほどで行くことができ、買い物などもそれほど大変ではないと感じているそうです。

山肌に沿って住宅が重なるように建っているため、お互いの住民が協力しなければなりません。近所の人が病気になるれば、駆け付けて手伝います。また、救急車の手配などをします。

震災前は372人の住民がいましたが、100件の住宅が津波の被害を受け、たくさんの人たちが寄磯から離れることを余儀なくされました。住民は80パーセント程が漁業を営んでいます。ホタテ部会やホヤ部会などいくつかの会があり、住民はそれぞれ何かの部会に所属しています。そのため、寄磯を離れても連絡をとり合い、祭りやアワビの開口の時には帰ってきて漁の作業をし、地域とのつながりが切れないと話してくれました。

1年の初めの行事は、1月2日から3日間にわたって行なわれる悪魔祓い^{ばらい}のため、獅子振り子ども大黒舞があります。また、5月に行なわれる熊野神社の例大

祭をはじめ、地域行事が沢山あり、地区の多くの人が参加をして協力します。

地域の「お茶っこ」が月に2回あり、カラオケや知人同士のお話などを楽しんでいきます。老人クラブとして活動しているメンバーは、ボランティアで地域内の草刈りや清掃などをします。

みんなが楽しめることが大切

『住民同士の結び付きを作っていくためには何をしたら良いと思いますか?』とお聞きしたところ、渡辺さんは、「魅力ある集まりを作っていくことが大切」と言いました。老人クラブなどに誘うことはもちろんですが、和気あいあいと笑い合ったりお酒を酌み交わしたり、みんなで旅行に行ったり、みんなが楽しいと思えるようにしていきたいと。

渡辺さんのお話から、地域の結びつきは一朝一夕には出来ないことがわかります。長年の努力と住民同士の協力によって地域の結束が強くなっているのでしょう。「時間があるときは浜まで降り、ぼつたり会った住民と話をし、元氣そうだと安心をする」と、優しい人柄が感じられる話をしてくれました。豊かな自然の中で地域の人と共に、支え合いながら暮らしていくことが、人間らしく、幸せな生き方と思えるお話でした。

◆ キャンプサイト

金華山を一望できる場所で自然を満喫しながらキャンプを楽しむことができます。



車を横付けできるオートサイトと、広い区画をみんなで分け合うフリーサイトは芝生の上にテントを立てるキャンプエリア。心地よい太陽の日差しと海風を浴びながらバーベキューや焚き火をして盛り上げられます。となりのサイトの方と仲良くなって一緒に海産物バーベキューなんてこともできるかもしれませんね！

◆ 施設情報

オートサイト(車を横付け可能): 31区画
 フリーサイト: 約10組
 サニタリー: 炊事場、シャワー室、トイレ、洗濯機(乾燥機付き)
 ケビン: 6棟(定員: 5名~8名)
 管理棟: 受付、レンタル、売店
 (オートサイト・フリーサイト・ケビンとも通年利用可能)

◆ 詳しくはこちらまで

おしか家族旅行村オートキャンプ場
 石巻市鮎川浜駒ヶ峯1-1
 電話番号: 0225-45-3420
 (午前8時30分から午後5時まで受付)



サニタリー棟
 こちらには炊事場やトイレ、シャワー室、さらに洗濯機(乾燥機付き)まで充実の設備が整っています！炊事場にはガスの五徳こたくが4つあり、家族で一緒にカレーや豚汁を作ったりも。1日中遊んで汗をかいたらシャワーを浴びて、土が付いた服やタオルをその場で洗えるのは嬉しいですね！



◆ ケビン棟

丸ごと1棟レンタルでき、別荘気分を味わうことができる施設です。



ロフトは和室になっています。「みかんどろぞ〜」

キッチンにトイレ、布団やベッドなどの寝具もすべて揃っている充実の施設「ケビン」は大人数や家族でのキャンプにぴったり！みんなで料理を作ったり、ベランダでくつろいだりと思いいの楽しみ方ができそうです。そして太平洋を望む眺望が最高！ここでコーヒーを飲みながらゆつくりと景色を眺めるのもいいかも。



ハンドルで高さ調整ができるんだ！



バリアフリー設備
 このキャンプ場にはバリアフリー設備が整ったケビンもあります。玄関までスロープで上がることができ、中も段差がなく広々としています。さらに、キッチンはハンドルを回してシンクの高さを変えられるなど車椅子を利用していても使いやしくキャンプを楽しめます。



寄らぬ人牡鹿 新春交流会

厳しい寒さが続く中、牡鹿半島の先端から笑い声が聞こえました。2月2日、寄らぬ人牡鹿新春交流会がホテルさか井で開催され、会員の他にも多くの出席者で会場は盛り上がり、余興やカラオケ大会を皆で楽しみました。

平成26年4月に発足した「寄らぬ人牡鹿」は、皆で楽しめるお茶つこ会や交流会、バスツアーなどを開催しながら生きがい創出に繋げ、住民による住民のための「助け合い」の場をつくってきました。今年で5回目を迎えた新春交流会。代表の石森政彦さんは、5年も続けてこられたことの喜びと、協力してくれた多くの人への感謝の気持ちを伝えました。

さて、ここからはお楽しみ時の間。一般社団法人サードステージの杉浦達也さんと新井英児さんによる体操。椅子に座ったまま、かけ声に合わせて手を動かします。「左手はバイバイ、右手はオイデオイデ。いいですか、みなさん！はい！反対っ!!」いろいろな体操を組み合わせて行い、「会場あはははっ!」と笑ってしまい手を

動かせなくなる人が続出。頭も体も心もぼかぼかと温まりました。会場も温まったところで、いざカラオケ大会。齋藤かつ子さんは三味線を伴奏に民謡を披露しました。子どもの頃から民謡が好きで、震災前から習っていたそうです。「今日のように大勢の前で歌う機会は少ないので、とても楽しかった」と話しました。安部かつ子さんは「こうしてみんなで集まる日をとっても楽しみにしている」と、笑みがこぼれました。

会場には、リボン・アートフェスティバルの代表・小林武史さんと鮎川を担当するアーティストも駆けつけました。今年、2回目の本祭を迎えるリボン・アートフェスティバル。小林さんは「年齢とか関係なく、地域の人と垣根を越えていきたい。ぜひ地元のみなさんも、僕たちと一緒にもう一歩を」と話し、楽しいひと時を一緒に過ごしました。

笑う（半島の）先には福来る。いんふおおしか編集室もみなさんの元気でパワーがみなぎり、福のおすそわけをいただきました。



ゴール

おしかのおもしろ

くじらの迷路
ゴールまで行けるかな?!
レッツトライ!



スタート



▶ 牡鹿公民館事業紹介

「バレンタイン・フラワーアレンジメント教室」

2月3日(日)10時から清優館(研修室)にて、牡鹿公民館主催「バレンタイン・フラワーアレンジメント教室」が開催されました。かづま生花の石川さんを講師に迎え、17名がフラワーアレンジメントの制作を行いました。参加者それぞれの個性あふれる華やかな作品ができました。来年度も開催を計画しております。ご期待ください!!



参加者全員で記念写真をパチリ

お問合せ: 牡鹿公民館 / 牡鹿保健福祉センター「清優館」
電話 0225-45-2611 FAX 0225-45-2196

▶ 石巻市復興まちづくり情報交流館 牡鹿館より

館内に展示している(仮称)鮎川浜地区拠点施設のイメージ模型に来館されたみんなの夢と希望を付箋に書き入れました! みんなの夢をふくらませよう!



お問合せ:
石巻市復興まちづくり
情報交流館 牡鹿館
電話 0225-98-9950

てくてくおしか

2月は1年でもっとも寒さが厳く、風も冷たい季節です。野外で仕事をする漁師や工事現場の皆さんは、どれほど大変かしらとしばしば思いを馳せます。毎日通る鮎川港の整備も目に見えて進み、完成が楽しみなほど形がわかるようになりました。

時折、私のもとには「いんふお・おしか」を目にし、読んでくださった方から感想のメールやお電話をいただくことがあります。昔の牡鹿の思い出や、小中学生が地域のために一生懸命活動している姿にとっても感動をした話、若い頃にしてみたかったサイクリングのこと。そして、感想を寄せてくださった方にお会いすることも。

私たちは誰しも沢山の人に出会って生きています。家族や地域の人、友達、仕事の同僚など。震災後は特に、若い頃には感じなかった、人との出会いの不思議さを強く感じるようになりました。出会いは偶然ではなく、真剣に向き合うために出会うべくして出会うのか、と思索することもあります。

工事で働く人々も、縁があり牡鹿の復興工事現場に携わっているんだな、と思うと直接話したことはないけれど身近に感じます。

(すずき)

